



# 進路指導室だより

平成26年度 第8号 (11月14日発行)

## P D C A

P…P l a n

D…D o

C…C h e c k

A…A c t i o n

これは、先日行われた第3回甲南塾の講師であった今給黎佳仁さんが皆さんに語った言葉です。物事を成し遂げるには、このサイクルを確実に実行に移していく必要があるという指摘は、皆さんの心にも深く刻まれたことと思います。

さて、このサイクルを皆さんの本業である「学業」に置き換えて考えてみましょう。

先日、3学年全てで実力考査と進研模試が実施されましたね。この場面でのP D C Aを具体的に示してみます。

【P】試験に向けての学習計画を立てる。

【D】試験勉強をし、実際に試験を受ける。

【C】試験の訂正をし、改善点を把握する。

【A】今後の学習方法の改善を図る。

皆さんがこの文章を読む頃には、【C】の段階だと思えます。試験訂正こそ、今後の自分の成績の伸びを決定づけるものであることを認識してください。ここでの検証が甘ければ（あるいは義務的な訂正に終始したならば）今までの失敗を繰り返すだけです。これでは「失敗の失敗」です。失敗を成功に繋げてこそ「意味ある失敗」ではないでしょうか。

「失敗の失敗」を重ねる人は、計画段階からの拙さを感じさせます。その失敗は【C】の段階の蹉跎から生じていると思うのです。その結果「試験に向けての学習計画」のみ立ててしまうのです。勿論試験前に学習計画を立てることはあるでしょうし、否定されるべきものではありません。しかし、往々にして、試験前だけの学習計画を立てて、日々の学習に対する取組が弱くなってしまいがちです。日常の学習を計画的に行うことこそ、学力の基礎を打ち立てます。対処療法的な学習では真の力はつかないのです。

あなたは、1年次からこのことに気付いて行動しますか？

それとも2年次から？ それとも3年次から？ ※

スポーツとは異なり、学業にフライングはありません。ならば早ければ早いほど良いに決まっていますよね。その気付きに到達できるチャンスが今なのです。

① 答案が返却されて（進研模試は自己採点）、自分の弱点・欠点に気付くチャンスが到来。

② 試験の訂正をして、問題を解く過程（解法）や穴のある分野の綻びに気付くチャンスが到来。

【C】を高い意識で行ってこそ、次のステップに繋がるのです。【C】がいい加減であると【A】の動機が弱まり、【P】や【D】も上手くいきません。サイクルが滞ってしまいます。だから本日は【C】を強調して述べました。

この文章を読んだ生徒諸君が少しでも意識を高めてくれることを期待しています。

※について

### 遅くなっても全然行かないよりはまだ Better late than never.

この言葉を覚えていますか？ 10月6日の全校朝礼において校長先生が話された言葉です。遅くなっても全然気付かないよりははまだ、と置き換えることは可能だと考えます。そして、**今頃気付いても遅い…**とってははいけません。**よく気付いた！！**とってください。なぜなら、気付かない、あるいは気付かないふりをして現実から目を背け続ける人が多いのですから。

よくぞ気付いたね。そして今から挽回可能です。さあ、次はA c t i o nだ！！

## 人材は群生する

本校生で赤崎先生に手紙を書いた人がいて先生からきた返事を見せてもらった。その中で先生は次のようなことを書いておられる。「若い皆さんが好きなことを見つけてこれからの人生を信念を持って活躍してほしい。今は情報や物があふれた時代だが、その中の真を見抜くことが重要だ。」また、若い人たちに贈るメッセージとして、「夢（やりたいこと、目標）を持とう。失敗を恐れない。やろうと決めたら最後まであきらめない。疑問（好奇心）を大切にする。輪（仲間、友達）を大切にする。」この5点を自分でも心がけてきたと書いておられる。

→同じ場所で学ぶ後輩として赤崎先生を知ったことをどう自分の成長につなげられるかが問われている。

→甲南の地は赤崎先生以前から人材の宝庫だった。学校のブログでも紹介している。そういう場所で勉強しているという自覚をもってほしい。人材は群生すると言われる。それは近くにいる者同士が刺激し合い成長するからだ。ぜひ切磋琢磨して成長してほしい。

11月10日全校朝礼における校長講話要旨  
本校HPから抜粋

本校出身の歴史学者である原口泉先生（現：鹿児島県立図書館長）が唱える「人材の群生」。赤崎先生以前から、薩摩の地、なかでも本校が所在する上之園町を含む三方限（サホウケリ）の地は人材の宝庫であったことが知られています。しかし、場が与えられたら、それだけで人材が群生するのではありません。そこに集う者の意識と行動次第です。互いに刺激し合ってこそ素晴らしい人材となっていくのです。

現在の皆さんが所属しているクラスや部活動には、刺激し合い、切磋琢磨する環境が整っているでしょうか。仮に「あと一步」だと感じているのであれば、他の誰かではない「あなた」が先鞭をつけてみませんか。甲南高校という「器」は既にある。その器の中身をどのようにするのか、どのように彩るのかは、甲南で学ぶあなたの手委ねられているのです。

この度の赤崎先生のノーベル物理学賞受賞を“凄い先輩がいた”ということに終わらせず、我々が後に続くように、積極果敢に毎日の学校生活を送っていきましょう。

## 資料

三方限出身名士一覧【甲南高校が位置する上之園町出身の人物を載せます】

- ・吉田清成（明治期に外交官として活躍）
- ・伊集院兼寛（薩英戦争のすいか売り決死隊、貴族院議員）
- ・讃良清蔵（薩軍として西南の役に従軍）
- ・山之内一次（鉄道大臣）
- ・大山綱良（明治政府から鹿児島県令として赴任するが、西郷軍の援助を行う。戦後処刑された）
- ・吉井友実（鳥羽・伏見の戦いで活躍。日本鉄道社長）
- ・野津鎮雄（政府軍として西南の役に従軍、最高位は陸軍中将）
- ・野津道貫（鎮雄の弟、元帥陸軍大将正二位大勲位功一級侯爵）
- ・山口金之進（薬丸自顕流の達人、寺田屋事件で活躍。戊辰戦争で戦死）
- ・江夏仲左衛門（薬丸自顕流の達人。寺田屋事件で活躍）
- ・高島鞞之助（陸軍大臣、台湾副総督）
- ・山沢静吾（アメリカ・ドイツに留学後に日本陸軍中将）
- ・種子田左門（東京・熊本鎮台長官を歴任）
- ・湊辺高照（薩軍として西南戦争で戦死）
- ・長沢鼎（アメリカに渡りブドウ王に。現在、甲南中に長沢ブドウの樹がある）
- ・伊集院彦吉（外務大臣）
- ・中原猶介（斉彬に登用され集成館事業で功績を残す）
- ・仁礼景範（海軍大臣、最高位は海軍中将）

※碑の近くに住む方が書かれているブログ「見見楽楽～九州ぶらり放浪記～」から転載しました。